



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/24 (月)	▲ 900	+ 8,700	+ 7,800	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 100 国債補完供給 + 27,800	国債買入 + 18,750	
4/25 (火)	▲ 2,000	+ 12,500	+ 10,500	各種財政資金の支払い			米：消費者信頼感指数 (4月)
4/26 (水)	▲ 2,000	▲ 15,000	▲ 17,000	申告所得税の受け入れ			
4/27 (木)	▲ 2,000	+ 2,000	トン		新型コロナ企業支援 ▲ 2,500		日：金融政策決定会合 (1日目) 景気先行CI指数 (2月) 景気一致指数 (2月) 米：GDP (1Q)
4/28 (金)	▲ 2,700	+ 2,200	▲ 500				日：金融政策決定会合 (2日目) 欧：ユーロ圏GDP (1Q)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初552兆2,100億円から始まった。その後国庫短期証券の発行や国債発行があったものの大きな変動はなく552兆3,700億円を越えた。

無担保コールON物は週を通して堅調な地合となった。新積み期初日となる17日の同加重平均金利は▲0.010%から始まり、その後、▲0.010%～▲0.009%の狭いレンジで推移した。週末3日積みとなる21日も市場参加者の動向に大きな変化はなく▲0.010% (速報) となった。

ターム物は1～2W物を中心に▲0.015%～▲0.005%程度の水準で出が見られた。

来週の予定は、国内では27日、28日に新体制による初の日銀金融政策決定会合がある。海外では27日に米GDP (1Q)、28日にユーロ圏GDP (1Q) の公表がある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ～ 0.001
1M	▲0.020 ～ 0.020
2M	0.010 ～ 0.050
3M	0.000 ～ 0.130
6M	0.000 ～ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ～ 0.000
CP 3M	0.000 ～ 0.01

<レポ>

足許GCは週を通して▲0.11%～▲0.105%の狭いレンジで推移した。

短国の入札があった19日および21日の取引でも水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年438～447回債、5年149～157回債、10年350～370回債、20年180～183回債、30年65～78回債、40年13～15回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆2,500億円で、週間償還額 (約5,700億円) を上回った。発行市場は、小売りや鉄鋼、石油業等で大型発行がみられ、活況なマーケットであった。発行残高は先週末時点の22兆8,843億円から20日時点で23兆4,438億円に増加した。発行レートは、0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。来週の週間償還額は、約1兆7,900億円となっている。発行市場は月末週となり相応の発行が予定されるものの、大型連休を控え、既に資金調達を行った企業も見られることから償還超が見込まれる。発行レートは、0%近辺での出合いが中心となることを予想する。25日に、CP等買入れオペが4,000億円程度オフアされる予定。

<TDB>

19日の1Y (1152回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1258% (前回債▲0.1112%)、平均落札利回り▲0.1515% (前回債▲0.1251%) となった。21日の3M (1153回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1619% (前回債▲0.1675%)、平均落札利回り▲0.1779% (前回債▲0.1816%) となった。

来週は入札が予定されていない。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。